

瓦

二の丸御殿跡からは、1,100 枚以上の陶器瓦が出土した。唐草紋、渦巻き状の巴と呼ばれる図形、桐の葉、点または円の集まりなど、装飾文様や家紋が刻まれたものもある。日本には 6 世紀後半、大陸からの仏教伝来とともに、焼成粘土瓦が伝来した。

瓦伝票

この瓦には、瓦の種類ごとの数や模様、注文した日など、瓦の注文の詳細が刻まれている。これらのことから、この瓦は水野氏が松本城を管理していた時代（1642～1725 年）のものであることがわかる。瓦に記載されている情報は以下の通り：

七月六日

巻物細工の柄 (89)

矢筈紋（やはずもん）(56)

小丸模様 (65)

フラット (82)

沢瀉紋

二の丸御殿の瓦の多くには、沢瀉紋が刻まれている。この紋は、1642 年から 1725 年まで松本城主であった水野家の家紋である。展示品は、その沢瀉紋を 16 個の丸で囲み、真珠を表現したもので、丸い珠を円形にならべた紋で、水野氏の初期に作られた瓦であることを示している。

巴文軒丸瓦

この瓦には、3 つの渦が巻いている巴形の模様が刻まれている。巴形の起源は不明だが、11 世紀以降、日本の紋章に用いられている。

このような丸瓦は、建物の軒先の瓦の目地を隠すために貼られる。今回展示されているのは、1590 年代の松本城築城時のものと考えられている。